

## 安全作業手順書【セーフティーカー手順書】



見積もり基準をした危険性の評価		見積もり基準をした危険性の評価		
		重大性(B)	可能性(A)	重大性(B)
○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)	○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○ ○ (極めて小さい)
○ △ (かなり小さい)	△ △ (中程度)	△ × (かなり大きい)	△ △ (1年に1回程度)	△ × (かなり大きい)
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	× ○ (中程度)	× △ (かなり大きい)	× × (極めて重大)	× × (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
× ×	極めて重大	5	即座に対策が必要
× △、△ ×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
× ○、△ △、○ ×	中程度	3	何らかの対策が必要
△ ○、○ △	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子見)
○ ○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC～春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛鳥北IC、有松IC～上社JCT)
機器工具 ・車両	作業車両、点検使用工具一式	保護具	ゴム手袋(グリップの効くもの)、安全チョッキ、安全くつ、ヘルメット

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
			(～なので～になる)			(A)	(B)	リスク	(私達はどうする)			(A)	(B)	リスク
作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1				
	作業員の役割(運転手、助手)を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する	○	△	2				
	車両誘導方法を確認をする	基地内の駐車位置、支障物等を確認して	基地内での共有事項を把握せずに事故を起こす	○	×	3	基地内での決まりごとを確認し、作業時は徹底する	○	○	1				
	運行ルートの確認をする	当日の規制状況、運行ルート、反転路を確認して	運行ルートや反転路を確認せずに出発して想定外のルートを行ってしまう	○	×	3	運転手、助手ともに当日の規制状況、運行ルート、反転路を把握する	○	○	1				
車両確認	使用車両靴の中身を確認する	運転手・助手の二人で鍵、プレート、通行証のチェックを行い	/	/	/	/	/	/	/	/				
	車両靴と使用車両が一致しているか確認する	運転手・助手の二人で	/	/	/	/	/	/	/	/				
作業車両準備	使用車両の点検を行う	車両点検表がある場合は、点検表に則り	点検不足により、走行中に車両が故障してしまう	○	△	2	出発前に必ず車両点検を行う	○	△	2				
	車両の燃料量とアドブルーの残量を確認する	/	燃料不足により、車両がエンストしてしまう	○	△	2	出発前に必ず燃料とアドブルーの残量の確認を行なう	○	△	2				
出発準備	出発時間等の調整及び連絡を行う	速度規制等の連絡が必要な場合、各々の手順書に従い	速度規制無表示により、一般車両から追突される	○	×	3	表示切替連絡及び実際の表示を確認して作業する	○	△	2				
	ETCカードの挿入及び確認を行う	運転手・助手の二人で	ETC未挿入のため料金所にて停車し後方のお客様車両に支障をきたす	△	○	2	車載器の音声等や、出発前の再度確認を運転手、助手の二人で行う	○	○	1				
本作業	基地等、敷地内から車道へと進入する	周囲の安全を補助員と共にしっかり確認して	確認不足により一般車両及び人と接触する	△	×	4	余裕を持って慎重に車道へ流出する	○	△	2				
	目的地へ回送する※	法定速度を守って	速度超過により事故を起こす	△	×	4	乗名及び名二環の法定速度を必ず守って走行する	○	△	2				
走行中 渋滞時	本線走行中は前方車両との車間距離を確保して走行する	前方車両との車間距離を確認して	前方車両と追突する	△	×	4	セーフティーカーの役割を把握して運転を行う 前方車両との車間距離を確保して走行する 流出する車両がある場合は前方の保安員がセーフティーカーに対して合図をするため、見逃さないようにする 渋滞発生時は前方車両との間隔をいつも以上にあげて停車をする。万が一追突された際に前方車両に接触しない距離を確保する	○	△	2				
	敷地内進入	車道から敷地内へ進入する	減速に後続車両が気づかず、追突される	△	×	4	必ず後方の確認を行いながら進入する	○	○	1				
駐車	駐車する	駐停車後、サイドブレーキ・輪留めを確認して	勝手に動き出し、車両及び人と接触する	×	△	4	駐停車後は、運転手・助手で確認をする	○	△	2				
	誘導者配置・位置を確認ならびに運転手自ら障害物有無の目視して	誘導者及び障害物に接触する	誘導者及び障害物に接触する	×	×	5	誘導位置、合図方法を双方で確認をする。 バックスピードはすぐに停止できる歩程度のスピードとする 運転手はバックをする前に誘導者の立ち位置が正しいか確認する。立ち位置に問題がある場合はバックせずに誘導者に立ち位置の修正をお願いする バックをしている時に誘導者が見えなくなった場合は一旦停止をする	○	△	2				
後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/				
※特記事項	車両回送	ランプ等のカーブを伴う道路の走行について	カーブでは遠心力が働くため、車両の操作や挙動に注意 特に下配ランプは速度が乗りやすいうえ、いきなり急カーブに入るため十分注意すること ・名古屋IC/Bランプ ・上社JCT/C・Dランプ	△	×	4	カーブにさしかかる手前までに十分減速する 減速時は急ブレーキにはならないよう、距離やスピードに余裕をもってブレーキをかける	○	△	2				